



おめでとう

重量挙げ
全国大会で健闘



▲藤田さん ▲中元さん

3月28日から石川県で行われた重量挙げの「全国高校選抜大会」に、南あわじ市から、中元秀和さん(洲本実業高校3年)と藤田真奈美さん(淡路高校2年)が出場しました。

中元さんは77kg級に出場。藤田さんは、プラス75kg級で準優勝に輝きました。

子育て応援
元氣アップ賞

地域の子育てに貢献した

団体に兵庫県知事から表彰されました。

◆南淡少年柔道教室

(片山勝義代表) 地域の小学生を対象に、柔道の稽古を通して「礼儀」や「人を敬う心」など、心の教育・指導を実施。

◆読み聞かせ教室ピノキオの会 (田丸憲子代表)

幼稚園や保育所、子育て学習センターなどで月1回、絵本の読み聞かせや紙芝居、手品などを実施。

クイーン淡路に
幸亜惟さん



▲幸さん

淡路島の観光を島内外にPRする「第28代クイーン淡路」に、南あわじ市潮美台の幸亜惟さんが選ばれました。洲本市の佐々木理沙さんとともに、来年3月末まで大役を務めます。幸さんは、「多くの人に、素晴らしい自然景観や、古くから残っている文化を伝えたい」と抱負を語っています。



▲お茶を配る児童

児童館クラブ茶道部

卒業記念にお手前を披露

児童館茶道クラブを卒業する児童4人の修了を記念して、茶道クラブ修了記念茶会が3月25日、児童館で開かれました。このお茶会には、保護者や福良地区の住民ら40人が参加。児童が姿勢正しくお茶をたて、参加者に配りました。

住民らは、子どもたちのお手前に見入りながら、お茶とお菓子を楽しんでいました。児童たちは「お茶をたてるだけでなく、礼儀作法も学びました」と話していました。

淡路瓦NEOタイプ(寒冷地仕様)

淡路瓦工業組合がブランド規格を統一



▲新しく印刷した淡路瓦のパフレットを持つ、福原幸蔵理事長(左)と道上義治PR委員長

淡路瓦工業組合(福原幸蔵理事長)が、寒い地域でも使用できる「淡路瓦NEOタイプ」という規格を発表しました。NEOとは、ギリシャ語で「新しい」の意味。これまでも、寒冷地用の瓦は各製造会社独自の基準で販売していましたが、統一した基準がなかったため、「淡路瓦は寒さに弱い」との風評を受けていました。しかし、このたびの

認定基準の一本化により、寒冷地仕様のブランドとしての品質基準を確保したといえます。福原理事長は、「淡路瓦の全国的な販路拡大ができれば」と期待を込めます。今後、NEOタイプの瓦は、「防災瓦」とともに全国区商品として売り出される予定です。また、組合製作のパフレット「淡路瓦コレクション」も作成され、今後、全国各地でPRに利用されます。

秦好雄さんに高齢者叙勲

旭日単光章を受章

秦好雄さん(榎列)が旭日単光章叙勲を受章され、4月14日、伝達式が中央庁舎で行われました。

秦さんは、昭和58年から3期12年にわたり旧三原町議会議員として、地方自治の発展に尽力。その間、町議会副議長、総務常任委員長として議会の円滑な運営に務められるなど、産業振興や福祉、教育、文化の振興に貢献されま

した。現在も、幡多土地改良区理事長や地区の青空市組合長を務められるなど地域のリーダーとして幅広く活躍されています。伝達式では、内閣総理大臣に代わり、長棟健二淡路県民局長から勲記・勲章が授与されました。中田市長や永田県議会議員からお祝いの言葉も贈られ、ご夫婦で喜びを分かち合っていました。



▲前列左から永田議員、中田市長、秦さん夫妻、長棟県民局長。後列左から田村市長公室長、川野副市長

あふれる風土資産で地域を活性化

淡路の歴史を紐解くシンポジウム



▲活発な意見交換があったパネルディスカッション

南あわじ市は、国生み神話の舞台となり古代政権とも関係が深く、歴史や文化、風土資産の宝庫です。それらを継承し活用して、地域活性化を考えようと、地元住民らでつくる榎列・倭文史研究会(仮称)が「淡路の歴史を紐解くシンポジウム」を4月5日、榎列公民館で開催しました。淡路地方史研究会会長の武田信一さんの基調講演のあと、地域の風土資産についてパネル討論会が催され、3人のパネラー、貫益己さん(考

古学)、正井良徳さん(人形浄瑠璃)、北原洋一郎さん(文芸)から、特色や学ぶべき点、課題が紹介され、これからの地域をどうすれば良いのかが討論されました。「大きな財産が周辺にあることを学び、知らせる努力で郷土に愛着が湧き、誇りを持つ」と「それが子どもの目にも反映して、地域に残って淡路のために頑張ろうという子どもたちも増える」など、活発に提言がありました。最後に、「新しい文化を創造することや新しく誕生したものを育てていく努力も必要」と締めくくられました。

菊川家住宅、県の景観形成重要建造物等に指定

景観形成に重要な役割を果たす

菊川兼男さん宅(湊里)が、3月28日、県の景観形成重要建造物等に指定されました。菊川さん宅は、寛政3年(1791年)ごろの「淡路名所図絵」に記録が残る由緒ある建物です。江戸時代には庄屋屋敷、明治には村役場として利用された、地域の代表的な建物でもあります。菊川さん宅の敷地は、戦国時代の安宅氏の湊城跡で、堀

跡、やぐら跡も確認できる貴重な歴史遺構であり、中庭には樹齢400年以上のクロガネモチが広く根を張っています。歴史・文化的価値に加えて、城郭の樹木を背景にした建築物独特の風景が、景観形成に重要な役割を果たしているとして指定を受けました。島内では阿万上町公会堂等に次いで2件目。



▲指定を受けた菊川家住宅

安全坊や6基を設置

沼島で交通安全

沼島で2月27日、交通安全を願って安全坊やが6基設置されました。沼島中学校生8人が製作したもので、カラーペンキで坊やを描き、南あわじ市社会福祉協議会の協力でコンクリート盤に固定しました。

近年、沼島では、軽トラックや工事車輛等の通行も増えているため、危険な場所に安全坊やを設置しました。

設置にあたっては、沼島交通対策委員長の阿部茂幸さん、南あわじ市交通安全協会沼島支部長の大川隆三さんらも協力しました。



▲製作された安全坊やと沼島中学校の皆さん